

2030生物多様性枠組実現日本会議(J-GBF)
第5回 行動変容ワーキンググループ

アサヒグループ社有林 “アサヒの森”の生物多様性取組み



2023年12月15日

アサヒグループジャパン株式会社

コーポレートコミュニケーション戦略部

アサヒグループの紹介

アサヒグループの概要

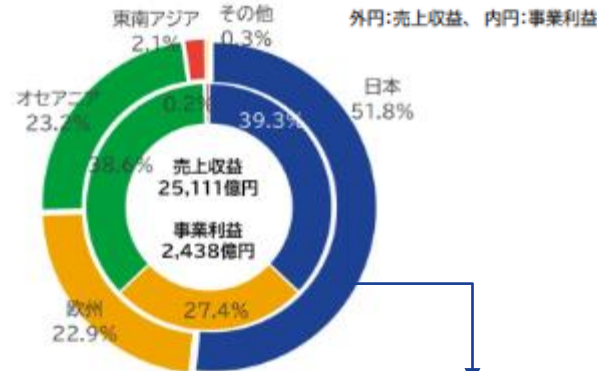
アサヒグループ
主要連結会社
(2023年9月時点)



社員数

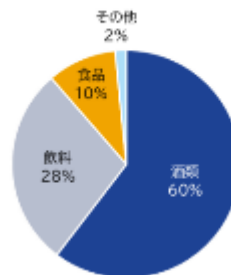
29,920人

2022年売上収益・事業利益 (セグメント別)



5 Global Brands

アサヒグループジャパン社(日本国内)
売上収益構成比 (2022年)



国内事業の主要商品

酒類事業(ビール類)



その他酒類、ノンアルコール



飲料事業



食品事業



サステナビリティと経営の統合

コーポレートステートメント 「Cheer the Future」



コーポレートステートメント
Cheer the Future
おいしく楽しんで、未来を元気に

アサヒグループは『中長期経営方針』のコア戦略のひとつに、「サステナビリティと経営の統合による社会・事業のプラスインパクトの創出、社会課題解決」を掲げています。その実現に向けてサステナビリティ・ガバナンス体制の実効性を高めるとともに、コーポレートステートメント「**Cheer the Future**」と「**サステナビリティ・ストーリー**」に基づく取り組みを推進しています。

「環境ビジョン2050」の改定

アサヒグループ 環境ビジョン2050

私たちアサヒグループは、100年以上にわたり、自然の恵みを享受して商品・サービスを生み出しています。地球環境問題の深刻化により、このままでは事業の持続可能性のみならず人類の存続までも脅かされていることに危機感を持っています。

自然の恵みなくして私たちは事業を継続しえないため、事業による環境負荷をゼロにし、循環を通して地球環境への価値を最大化するプラネットポジティブを達成する覚悟です。



2050年の世界のありたい姿 プラネットポジティブ

気候変動

Beyond カーボンニュートラル

脱炭素社会に向けて、事業の枠を超えた社会全体におけるカーボン排出量が削減され、生物多様性が保全された世界

容器包装

容器包装廃棄物の ない社会

使用される容器包装の資源利用が最小化され、使用後の容器包装が循環しており、特に海洋生態系が保全された世界

農産物原料

命を育む持続可能な 農産物原料

環境配慮、人権尊重、地域活性化が実現された農業が行われ、安定的な生産と生態系の維持が両立した世界

水資源

人と自然のための 健全な水環境

健康、生活環境、生物多様性が保たれる適切な水質・水量、土壌の機能が維持されており、自然災害へのレジリエンスが向上した世界

アサヒの森の取組み

社有林「アサヒの森」

1941年大日本麦酒(アサヒビールの前身)が、ビール瓶の王冠の裏地に使用していた輸入のコルク不足に備え、アベマキの樹皮を代用品として確保するため山林を購入。

総面積は2,165ヘクタール(東京ドーム461個分に相当)

■広島県庄原市と三次市に点在する15の山



※管理面積は2,467ha



アベマキの樹皮



アサヒグループジャパン(株)
アサヒの森環境保全事務所
所長 松岡 洋一郎

1941年に「アサヒの森」を取得して以来、社員の手で森を守り続けています。きれいな水や空気、自然の恵みを次世代に引き継いでいくことは、自然の恵みを用いて事業活動を行う私たちアサヒグループの責任だと考え、アサヒの森環境保全事務所はこれからも森を守り続けていきます。

アサヒの森環境保全事務所 所長 松岡 洋一郎

責任ある林業と間伐材利用

- ・ アサヒの森は、木材サプライチェーンの上流を担う。苗を植え、木を育て、木を伐り、また植えるサイクル。
- ・ 収穫されたヒノキやスギは、地元の原木市場や製材工場に出荷。建築資材等に加工され市場に流通。

■ 責任ある森林経営



■ 間伐材の利用



間伐材を利用した「アサヒの森 甲野村山フォレストハウス」



アサヒグループ研究開発センター カフェテリアの天板



出荷される原木



アサヒグループの大阪グループシェアオフィスインフィルブースのパーテーション



国立競技場 提供：大塚建設株式会社

2019年FSC 認証材を出荷

アサヒの森 沿革



- 責任ある森林管理の国際認証「FSC認証」を2001年に取得。その後も各種認定や顕彰を受賞。

1941年	アバマキが自生する広島県の山林を購入。
1949年	朝日麦酒（株）庄原林業所開設
1960年	ヒノキ、スギの植林を本格的に開始
1970年	ヒノキ幼苗・ヒノキポット 苗木育苗開始
1987年	ブナ林自然環境保全地域指定（女亀山の一部）
1993年	戸谷山で会長記念植樹 [1995年より社長記念植樹開始]
1998年	神之瀬峡県立自然公園に指定（二分坂山・曲谷山・黒口山の一部）
2001年	「FSC®FM」認証取得
2005年	CoC認証を追加取得し「FSC FM/CoC認証」
2007年	庄原林業所から「アサヒの森環境保全事務所」に変更
2008年	林野庁近畿中国森林管理局と「美しい森林づくりに関する覚書」を締結
2010年	生物多様性モニタリング調査を2010～2012年で実施
2011年	オフセット※3クレジット（J-VER）を取得 吸収量1.375t-CO2（間伐促進型プロジェクト）
2014年	第53回全国林業経営推奨行事において林野庁長官賞受賞 アサヒの森 生物多様性の保全基本方針策定
2016年	第5回いきものにぎわい企業活動コンテストにおいて農林水産大臣賞受賞
2019年	広島県の「意欲と能力のある林業経営者」として登録
2020年	庄原市比和財産区との財産区有林管理に係る契約の締結
2021年	戸ノ丸国有林における分収造林植林完了 「文化庁ふるさと文化財の森」登録
2022年	第1回「森林×脱炭素チャレンジ2022」においてグランプリ受賞
2023年	アサヒの森 甲野村山が 環境省「自然共生サイト」に認定

FSC (Forest Stewardship Council * 森林管理協議会)
FM認証 2001年取得 ※日本で3番目の取得
CoC認証取得 2005年取得



環境省 オフセット・クレジット制度J-VER
 (Japan Verified Emission Reduction) 2011年取得

第53回全国林業経営遂行行事・林野庁長官賞 2014年受賞

第5回いきものにぎわい企業活動コンテスト 農林水産大臣賞 2016年受賞

広島県「意欲ある林業経営者」2019年登録

文化庁「ふるさと文化財の森」2021年登録 ※食品メーカーで初

第1回「森林×脱炭素チャレンジ2022」においてグランプリ受賞
(2022年)

アサヒの森 甲野村山が 環境省「自然共生サイト」に認定
(2023年)

アサヒの森の自然資本定量化

✓アサヒの森は、森を適切に管理することで自然の恵みを育み、自然資本として定量化している。

■自然資本としての価値の定量化の例

自然資本としての価値の定量化の例（外部の専門家による評価）

原則として、生物多様性及び生態系サービスの総合評価報告書[※]に準拠して評価しています。

※「生物多様性及び生態系サービスの総合評価報告書」（環境省、2016）

潜熱効果



物理量：997万 m^3 (蒸散)
備考：100 km^2 の範囲を
2°C低下させる

CO₂吸収



物理量：12,200トン
備考：工場排出の6.2%

大気浄化



物理量：SO₂ 184kg
NO₂ 992kg
備考：工場排出の4.3%
工場排出の1.0%

水質浄化



物理量：窒素 69トン
リン 1.0トン

土壌流出防止



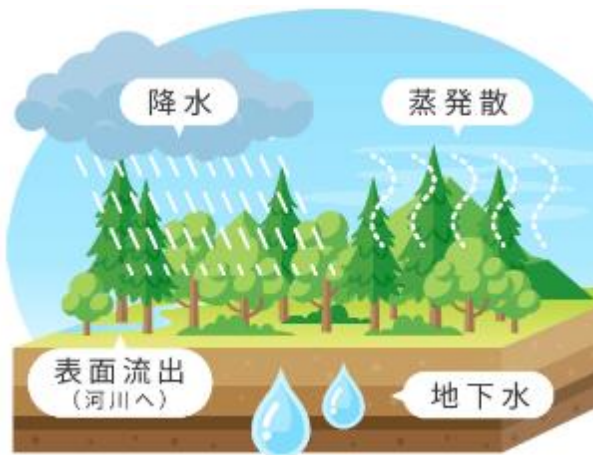
物理量：9.2万トン

持続可能な水資源への貢献

- ✓ 国内のビール工場での水使用量の削減を進めるとともに、「アサヒの森」の管理面積を拡大※し、持続可能な森林経営を行うことで、AB社ビール工場で使用する水と同量の水を、「アサヒの森」における水涵養(森が水を育み蓄える能力)量でまかなっている。

※持続可能な水資源への貢献にむけて2019年、管理面積を拡大(2,467ha)

■水涵養の仕組み



■アサヒの森の水涵養量

水涵養量 **1,101**万 m^3



2021年の国内ビール工場の水使用量は「約963万 m^3 ／年」となり、100%以上の水使用量相当を「アサヒの森」で地球に還元

生物多様性保全

- アサヒの森の森林生態系に関するモニタリング調査を2002年・2009年そして2010年～2012年にわたり実施。以降も、適正な森林管理の証として植物・動物のモニタリングを継続。

■生物多様性レポート



■環境DNA調査(2021年) オオサンショウウオのDNA発見



■定点カメラデータ分析(2022年)



生物多様性レポート 有識者の意見
「間伐など人工林における施業が
適切に行われてきた結果、
多様な鳥類が生息しているのだろう」



調査結果：
たくさんの植物・生物が生存している」
アサヒの森は、生物多様性が非常に豊かな
状態である。

「アサヒの森」を活用した 従業員の森林取組み事例

従業員むけWEBセミナー

- グループ社員における「アサヒの森」の認知・理解促進を目的にWEBセミナーを実施
- 約100名の社員が参加。

■「森を守る活動」についてのWEBセミナー概要(22年6月)

テーマ	➤ 森を知ろう！考えよう！行動しよう！ 社内外の専門家から学ぶ『森のスペシャル講演』			
目的	➤ 森や生物多様性に関する一般知識を学び、自然の恵みの大切さを理解する ➤ 80年以上に渡り、社員の手で森を守り続けてきた「アサヒの森」を学ぶ			
開催日時	2022年6月3日（金）18～19時	応募期限	～2022年5月26日（木）	
ウェビナー形式	パネルディスカッション形式（Teams）	招待日	2022年5月31日（火） ※多少、前後する可能性がございます。ご了承ください。	
内容	➤ アサヒの森の歴史や活動の紹介 ➤ 森についての考え、想い ➤ 誰でもできる環境保全活動		対象者	AGH社、AGJ社、AB社、ASD社、 AGS社の在籍社員 (AQI社、ABC社在籍社員含む)

■活性化策

グローバル施策の開催期間
2022年5月23日(月)
～6月17日(金)

期間中に活動参加した従業員の中から、ノベルティとして「森のタンブラー RE:CONNECTION for the Earthバージョン」を抽選で500名にプレゼント



アサヒの森での社員研修

- ✓中四国統括本部の新入社員及び転入社員を中心としたアサヒの森研修をグループ横断で実施。
- ✓2022年、2023年の2年間で延べ100名以上の研修を実施。

■2022年アサヒの森研修の様子



(2022年参加人数計:39名)

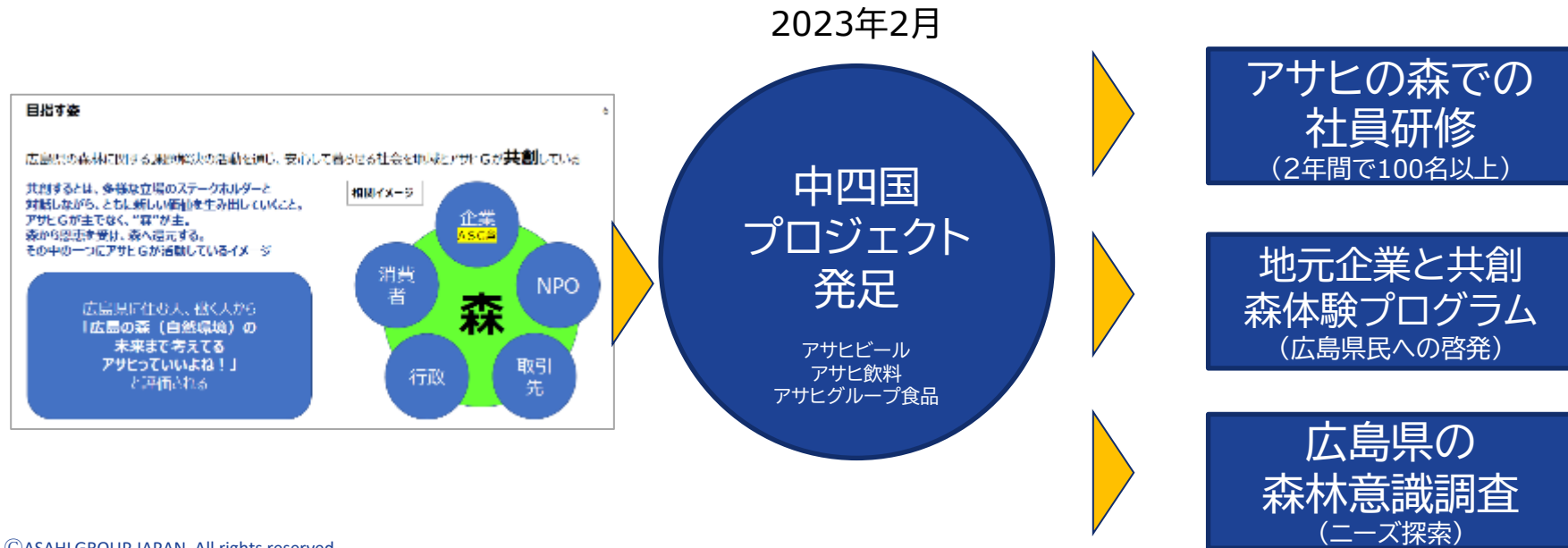
■2023年アサヒの森研修実施スケジュール

実施日時	人数	内容
5月26日(金)	16名	ローカルSDGs専任リーダー研修
5月29日(月)	19名	AGS岡山工場新卒研修
6月7日(水)	5名	AGJ大阪万博チーム研修
7月6日(木)	16名	新入社員研修
9月29日(金)	12名	転入社員研修
10月7日(土)	15名	転入社員研修



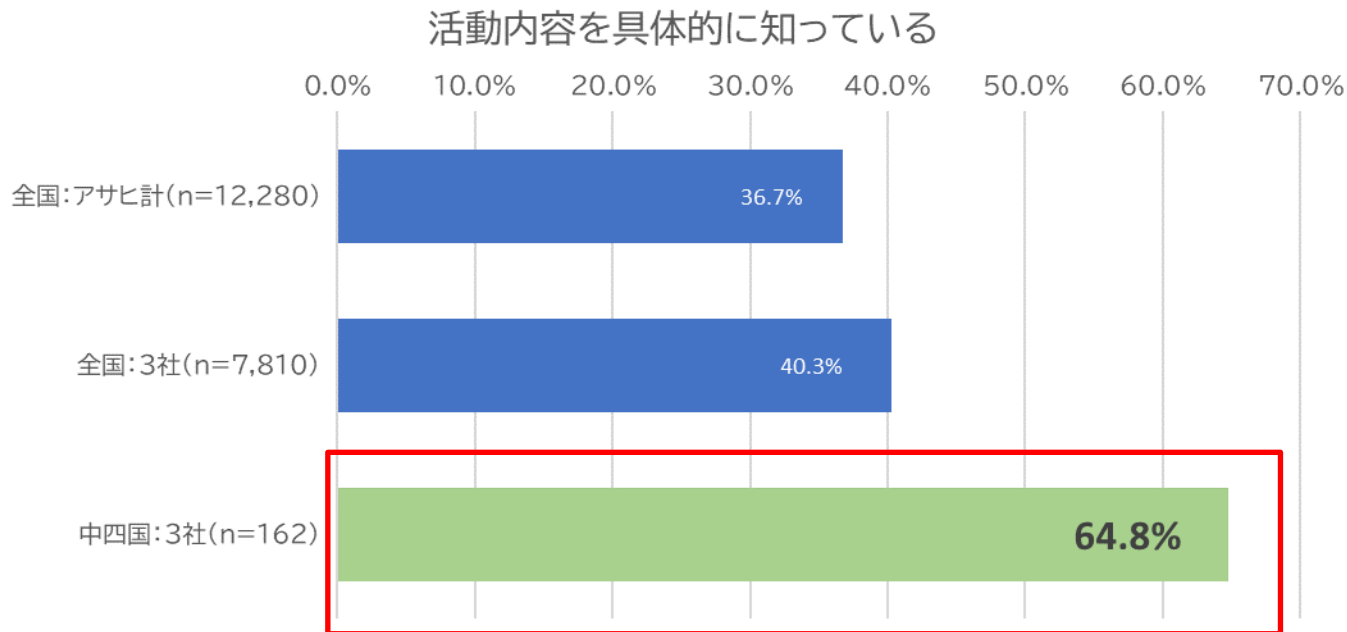
中四国従業員による「アサヒの森プロジェクト」

- 23年2月、アサヒの森研修に参加した広島県のグループ社員の想いから発足した「アサヒの森プロジェクト」。
- 「アサヒの森を通じて地域貢献したい」という想いから、アサヒの森を活用した森林啓発活動の検討開始。
- 23年10月には、プロジェクトの実験的取組として、サステナビリティに対する意識の高い地元企業との共創により、広島県民にむけた森林体験プログラムを実施。



「アサヒの森」の従業員認知

- 2023年11月に実施した社員調査の結果では、アサヒの森に対する中四国オフィスの従業員認知率は64.6%と全国平均に比べて高い。



森とアサヒのこれから

アサヒグループの水源地保全活動

- ✓ 2004年、「水」という自然の恵みに支えられている、という思いから、アサヒビール四国工場の従業員起点で森林保全活動が始まった。
- ✓ 森が健やかであればあるほど、清らかな水を豊富にすることから、「**自分たちで使う水は、自分たちで保全しよう**」と近隣の森へとおもむき、植林や下草刈り、枝打ち、間伐など、水源地の森を生き生きとした状態に保つための整備をするようになった。
- ✓ アサヒビール四国工場に触発された他の工場も、**地元の森保全に乗り出した**。数年ののちに活動は全国へと波及し、アサヒグループ各社の社員とその家族を巻き込む一大ボランティア活動へと発展した。



- ・従業員の主体性によって始まった活動
- ・アサヒグループが目指す、コミュニティ支援を象徴する活動

例:アサヒ飲料の森

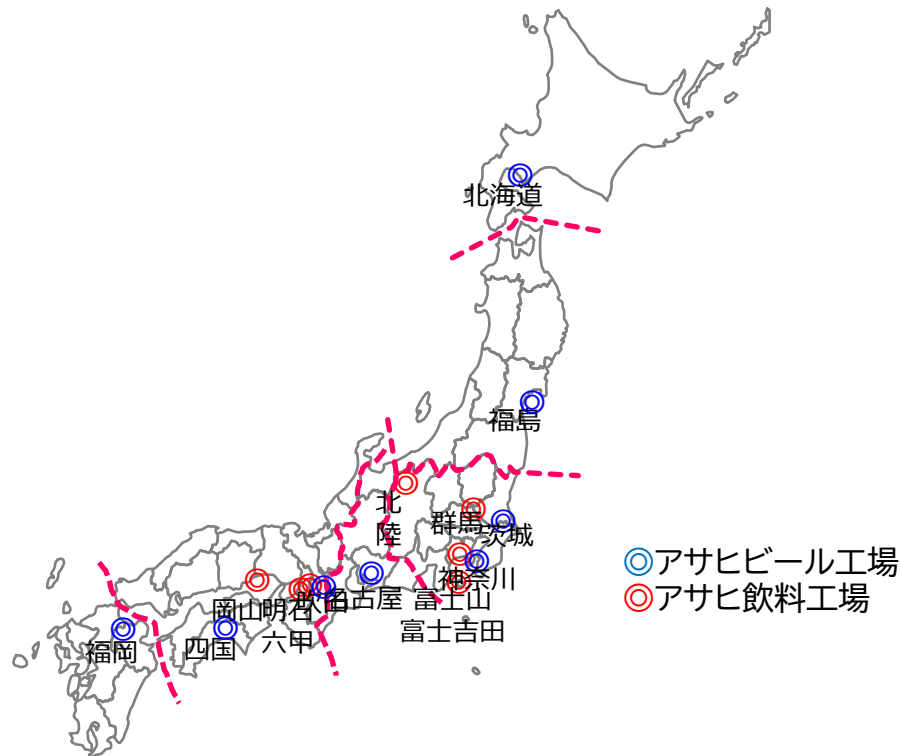
- ✓ 「アサヒ飲料の森」づくり～アサヒ飲料社 工場水源となっている森林の保全活動
(群馬工場、北陸工場、富士山工場、明石工場、岡山工場)
- ✓ 各工場社員が主体的に、木を植えたり、間伐や雑草刈りをしたり、健康な森を育む活動と、地域の方を招いた体験会、環境勉強会などを実施



事業を通じた全国の森への貢献

- 水源地保全活動は、全国の製造拠点をはじめ、これまで16カ所、194回、のべ8,000人が参加する活動。
- この活動とアサヒの森で培った経験を活かし、事業を通じた森林課題の解決に取り組む計画。

会社	主催事業場	対象の森	
		所在地「森の名称」	水源地
アサヒビール	北海道工場	定山溪国有林 「アサヒビールの森」	●
	福島工場	福島県耶麻郡猪苗代町有林	●
	茨城工場	友部国有林 「アサヒビール友部水源の森」	●
	神奈川工場	足柄・松山水源地	●
	名古屋工場	御高町有林 「アサヒビール木曾川水源の森・みた」	●
	吹田工場	近江八幡国有林 「アサヒビール近江奥島水源の森」	●
	四国工場	石鎚山系水源地	●
	博多工場	上梶原森林公園	●
	北海道統括本	昭和の森 野幌自然休養林	
	首都圏統括本	明治の森 高尾山 (兵庫県丹波市青垣町)	
	近畿圏統括本	「遠阪アサヒの森」	
		明治の森 箕面自然休養林	
	高松支社	高松市塩江町安原下 「香川・アサヒビールの森」	
	高知支社	工石山自然休養林	
鹿児島支社	屋久島自然休養林		
アサヒ飲料	北陸工場	とやまの森 「森づくり活動 in Oritate」	●
	岡山工場	高梁市有林 「アサヒ飲料の森～岡山工場～」	●
	群馬工場	桐生市 水源の森 「アサヒ飲料の森 群馬工場」	●
	富士山工場	富士宮市北山 「アサヒ飲料の森」	●
	明石工場	キーナの森 「アサヒ飲料 明石工場の森」	●
	ニッカウヰスキー	北海道工場	余市川周辺森林保全活動
アサヒグループ食品	栃木工場	「わこちゃんの森」づくり	





Thank you!

參考資料

マテリアリティと重点テーマ

重点テーマ

取り組みテーマ



グループの経営課題として取り組む領域をマテリアリティとして設定
経営資源を集中して取り組む重点テーマには全てグローバルKPIを設定

5つのマテリアリティ



重点5テーマと主な目標



「森林×脱炭素チャレンジ2022」グランプリ受賞

✓ 2022年5月、農林水産局 林野庁主催の懸賞でグランプリ受賞。森林整備による脱炭素への貢献に加え、森林資源の循環利用や公益的機能の発揮に資する幅広い取り組みが行われていることが評価された。

グランプリ【農林水産大臣賞】

アサヒグループジャパン
株式会社

社員の手で守り続ける“アサヒの森”

CO₂吸収から地域振興 多様な価値の創出



アベマキの林(広島県三次市)

CO₂吸収量

816 t-CO₂/年

主な整備内容



間伐 183ha

スギ・ヒノキ
7～15 齢級



植栽 8ha

スギ・ヒノキなど
1 齢級

アサヒの森(甲野村山)自然共生サイトに認定

✓「自然共生サイト」とは、「民間の取組等によって生物多様性の保全が図られている区域」を環境省が認定する区域。

✓2023年10月にアサヒの森(甲野村山)が自然共生サイトとして正式認定。

森の外観



林内景観



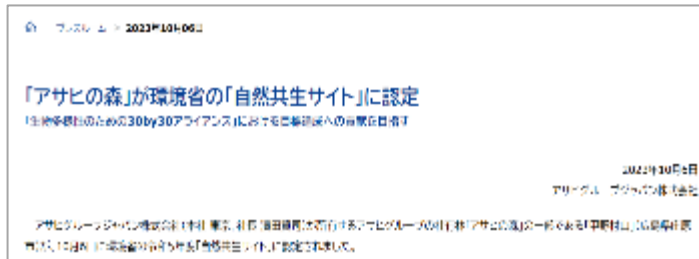
アサヒの森 甲野村山の生物多様性の価値概要

- 主にスギ・ヒノキ植林地、自然林(コナラ林)から成る森林。隣接して水田が存在し、里山の景観を形成。
- 多様な環境に希少種を含む多くの在来種が生育・生息。スギ・ヒノキ植林地は列状間伐等の管理の実施により下層植生が発達し、森林環境が健全に保たれている。
【生態系サービス】木材供給(供給サービス)、水源涵養、温室効果ガスの吸収(調整サービス)、環境教育(文化的サービス)。
- 調査で植物274種、鳥類40種が確認。希少種のサシバ、ヤマドリ、ブッポウソウ、オオアカゲラ、サンコウチョウ(鳥類)、ゴギ(魚類)、オオサンショウウオ(両生類)などの生息を確認。

サシバ(甲野村山:2010/5/18)



ニュースリリース(10/6)



環境省HP



EOF

The Asahi logo, featuring the word "Asahi" in a stylized, blue, italicized font.